

時間表現としての、中国語「到」「ゼロ形式」と日本語「まで」「に」「で」

渡 辺 誠 治

0. はじめに

中級から上級レベルの日本語クラス（JFL）で中国人学習者約50名に対し、次の文の的確性について質問したことがある。

- (1) 3月に卒業する。
- (2) 3月まで卒業する。

(1)は全員が「正しい」と正しく判断したが、(2)では過半数の学生が「正しい」と誤った判断をした。さらに、(2)が「正しい」と答えた学生に対して、(2)の文の意味を尋ねたところ、多くの学生が(1)と同じであると答えた。

当然のことながら、(2)は正しくない。また日本語の文として成立しないのだから、(2)が(1)と同じ意味を持つと判断することもできない。

時間表現に接続する「に」や「まで」は、日本語教育の一般的なテキストでは、初級の、それも比較的早い段階から出てくる基本的な表現である。にも関わらず、中上級に属する彼らが(2)を正しいと判断し、かつ、(1)と同じ意味だと考える背景には何があるのだろうか。

本稿の目的は、時間表現とともに使用される日本語の「に⁽¹⁾」「まで」「で」と中国語の「到」「ゼロ形式⁽²⁾」との比較を通して、上の質問に対する解答を与えることである。

1. 時間表現とともに使用される日本語と中国語の助辞⁽³⁾

1.1 日本語「に」と中国語「ゼロ形式」

「に」は、事態の発生する時（時点）を表す。

- (3) 彼は昨日の午後3時にここに来た。
- (4) 3月に卒業する。

時間表現としての、中国語「到」「ゼロ形式」と日本語「まで」「に」「で」

日本語の「に」は、中国語では主に「ゼロ形式」となり、時間表現のみが単独で表れる⁽⁴⁾。次の(5)(6)はそれぞれ(3)(4)に対応する中国語である。

(5) 昨天下午3点 他 来到 这儿。
(昨日の午後3時 彼 来た に ここ)

(6) 3月 毕业。
(3月 卒業する)

1.2 日本語「まで」と中国語「到」

「まで」は継続的な事態が及ぶ範囲を表す。

(7) この部屋で3時まで休憩する。

(8) 確かに昨夜の3時まで書類はここにあった。

「休憩する」「ある」はそれぞれ人の行為、物の存在という違いはあるものの、いずれも継続的な事態である点で共通する。

日本語「まで」は、中国語「到」に概ね対応する。次の(9)(10)は(7)(8)に対応する中国語である⁽⁵⁾。

(9) 在 这间 屋子 休息 到 3点。
(で この 部屋 休憩する まで 3時)

(10) 到 昨晚 3点 这个 文件 确实 是在 这儿。
(まで 昨夜の3時 この 書類 確か ~にあった ここ)

上述のとおり、「まで」は継続的な事態が及ぶ範囲を表すため、継続性を持たない動詞とは共起しない。次の(11)(12)がいずれも正しくないと感じられるのは、「来る」「卒業する」が継続性を持たないためである。

(11) *彼は3時までここに来た⁽⁶⁾。

(12) *3月まで卒業する。(=(2))

1.3 誤った理解の背景

前節までに、日本語「に」と中国語「ゼロ形式」、及び、日本語「まで」と中国語の「到」との間に対応関係があることを見た。しかし、「まで」と「到」は部分的に重なりながらも、それぞれ独自の広がりを持つ。

次の(6)は(4)に対応する中国語である。形式的にみると、「に」と「ゼロ形式」が対応関係にある。

時間表現としての、中国語「到」「ゼロ形式」と日本語「まで」「に」「で」

(6) 3月 0 毕业。
(3月 卒業する)

(4) 3月に卒業する。

さて、日本語では、(4)は正しいが、次の(12)は正しくない。

(12) *3月まで卒業する。

ところが、中国語では、「3月」の前に「到」を置くことができる。つまり、(6)も次の(13)もともに正しい。

(13) 到 3月 毕业。
(まで 3月 卒業する)

(13)と(6)は、同じ事実を表す。つまり、「卒業する」のはいずれも「3月」である。

以上のことから、中国人学習者が「3月まで卒業する」という文を正しいと判断し、しかも「3月に卒業する」と同じ意味に解釈した理由が見えてくる。すなわち、前提として、「到」と「まで」が対応すると（当該学習者は）考えている、したがって、中国語の「到3月毕业（=13）」の「到」は「まで」になると判断する（過度の一般化）、その結果、「3月まで卒業する」は正しいと判断される、さらに、「到3月毕业（=13）」は「3月毕业（=6）」と同じ事実を表すので、「3月まで卒業する」も「3月に卒業する」と同じ事実を表すと判断する。

以上が「0. はじめに」に示した疑問に対する一応の解答であるが、さらに、次の疑問が生じる。

第一に、(6)と(13)の形式の違いは、事実のレベルでは同じ意味を表すとしても、それ以外のレベルで何らかの異なる意味を表しているのではないか。

第二に、事実のレベルを超えた領域で(6)と(13)が何らかの異なる意味世界を持つとすれば、日本語で(13)の意味世界を表す文法的手段は準備されていないのか。

以下の節では、これらの疑問について考察を進める。

2. 日本語と中国語に共通する文法現象

2.1 日本語の「で」

時間表現につく「に」の中には「で」に置き換えることができるものがある⁽⁷⁾。次の例文の「に」はいずれも「で」に置き換えることができる。

- (14) a. 3月に卒業する。
b. 3月で卒業する。
- (15) a. 上海万博は10月に終わる。
b. 上海万博は10月で終わる。
- (16) a. 私の留学生生活は来年の4月にちょうど1年になる。
b. 私の留学生生活は来年の4月でちょうど1年になる。
- (17) a. この店は今年の8月にちょうど10周年を迎える。
b. この店は今年の8月でちょうど10周年を迎える。

意味的には、aが表す事実とbが表す事実は同じである。例えば、(14)では、「卒業する」のは、aもbも「3月」であるという点（＝事実のレベル）で違いはない。

ただし、(14)～(17)のように「に」を「で」に置き換えられるケースは限定されている。次の(18)～(20)では「に」を「で」に置き換えることができない。

- (18) a. 彼女は去年の3月に入学した。
b. *彼女は去年の3月で入学した。
- (19) a. 上海万博は4月に始まる。
b. *上海万博は4月で始まる。
- (20) a. 彼は昨日の午後3時にここに来た。
b. *彼は昨日の午後3時でここに来た。

「に」と「で」の置き換えが可能な(14)～(17)には共通した特徴がある。すなわち、「ある特定の状態が継続し、ある時点に達した時、継続していた状態に質的な変化が生じる」という含意がある点である⁽⁸⁾。

(14)について言えば、“3月に卒業する”ということは“3月まである機関に在籍している”ということを含意する。(15)も同様、10月まで“万博の開催”が継続していることを含意する。そして、当該時点に達したとき、継続的状

時間表現としての、中国語「到」「ゼロ形式」と日本語「まで」「に」「で」

態は終了する。(16)(17)では、“留学生活”“営業”という状態の継続が含意されており、当該時点に達した時、それらの状態は質的に変化(ステージの変化)が生じる。このような含意があってはじめて「で」の使用が可能になる⁽⁹⁾。

(18)~(20)には、ある時点まで継続される「特定の状態」が含意されていない。「入学していない」「始まっていない」「来ていない」という否定的な状態は含意されるが、それは(14)~(17)に含意される「ある特定の状態」とは質的に異なるものである。(18)~(20)で「に」を「で」に置き換えることはできないのは、そうした含意がないからである⁽¹⁰⁾。

2.2 中国語の「到」

興味深いのは、類似した文法現象が中国語においても観察されることである。

次の(21)~(24)は、(14)~(17)に対応する中国語である。つまり、「ある特定の状態が継続し、ある時点に達した時、継続していた状態に質的な変化が生じる」という含意を持つ文である。日本語では、(14)~(17)でみたように、こうした含意がある場合、「に」を「で」に置き換えることができた。中国語でも、こうした含意がある場合、「ゼロ形式」で表示されている時間表現の前に「到」を付けることができる。

- (21) a. 3月 毕业。
(3月 卒業する)
- b. 到 3月 毕业。
- (22) a. 上海世博 10月 结束。
(上海万博 10月 終わる)
- b. 上海世博 到 10月 结束。
- (23) a. 这家店 今年8月 将要 迎来 10周年。
(この店 今年の8月 【未来を表す】 迎える 10周年)
- b. 这家店 到 今年8月 将要 迎来 10周年。
- (24) a. 我的留学生活 明年4月 将满 1年。
(私の留学生活 来年の4月 なる 1年)
- b. 我的留学生活 到 明年4月 将满 1年。

一方、次の(25)~(27)の a は、それぞれ(18)~(20)の a に対応する中国語である。

時間表現としての、中国語「到」「ゼロ形式」と日本語「まで」「に」「で」

つまり、「ある特定の状態が継続し、ある時点に達した時、継続していた状態に質的な変化が生じる」という含意を持たない文である。日本語では、(18)~(20)で見たように、当該の含意がない場合、「に」を「で」に置き換えることができなかつた。中国語でも、この場合、「ゼロ形式」で表示されている時間表現の前に「到」を付けることができない。

- (25) a. 她 去年3月 入学。
(彼女 去年の3月 入学する)
- b. *她 到 去年3月 入学。
- (26) a. 上海世博 4月 开始。
(上海万博 4月 始まる)
- b. *上海世博 到 4月 开始。
- (27) a. 昨天下午3点 他 来到 这儿。
(昨日の午後3時 彼 ~に来る ここ)
- b. *到 昨天下午3点 他 来到 这儿。

2.3 本節のまとめ

以上の考察によって、1.3節の最後に提起した2つの疑問に対する解答を与えることができる。

まず、中国語における「ゼロ形式」と「到」との対立を表現し分ける文法的手段が日本語にあるか、という点であるが、「ゼロ形式」は「に」、そして「ゼロ形式」と置き換え可能な「到」に相当する日本語の形式は「で」である。

- (28) a. 上海世博 到 10月 结束。
- b. 上海万博は10月に終わる。
- c. 上海世博 到 10月 结束。
- d. 上海万博は10月で終わる。

次に、意味の違いに関する疑問である。(28a)と(28c)、(28b)と(28d)はそれぞれ形式は異なるが、表現される事実は同一である。しかし、「到(28c)」や「で(28d)」が成立するためには、「ある時点まで継続される特定の状態」がなければならない。(28)におけるそれは、「万博が開催されているこ

時間表現としての、中国語「到」「ゼロ形式」と日本語「まで」「に」「で」

と」である。

ここで再度、確認するが、「ゼロ形式 (28a)」や「に (28b)」は、そうした前提がなくても成立する。次の(29)では、「4月」まで継続する「特定の状態」は前提として存在しない。前提がない場合は、次のとおり、「で」や「到」への置き換えはできない。

- (29) a. 上海世博 到 4月 开始。
b. 上海万博は4月に始まる。
c. *上海世博 到 4月 开始。
d. *上海万博は4月で始まる。

話を戻す。話者がより中立的な形式である「に」や「ゼロ形式」¹¹⁾で表現できる事態を述べるのに、敢えて、周辺の形式である「で」や「到」を用いようとする動機は、「で」「到」が差し出す上述の含意に焦点を当てたいからに他ならない¹²⁾。次の文を見られたい。

- (30) a. この店は今年の8月にちょうど10周年を迎える。
b. 这家店 到 今年8月 将要 迎来 10周年。
c. この店は今年の8月でちょうど10周年を迎える。
d. 这家店 到 今年8月 将要 迎来 10周年。

(30ab) は中立的な表現であり、「10周年」という事態が発生する「時(8月)」が特定されているだけである。

一方、(30cd) は、ある状態(この場合は「この店の経営」)が「今年の8月」まで継続してきたことに焦点が当たる。そして、「8月」が継続の区切りとなって、状況は次の新しいステージに質的に変容していく。文法が受け持つ意味はここまでだが、状況とともに出現する文の表現的意味は多様である。例えば、これまでの継続(苦労を重ねながら店を守ってきたこと)に対する「感慨」や、10年経ったからそろそろ建て替えようか、といった「思い」などの存在が、これらの文の成立(「で」や「到」の選択)の動機になっていると考えられる¹³⁾。

3. 中国語「到」と日本語「まで」、そして「で」

本稿は、中国語の「ゼロ形式」と「到」、日本語の「に」と「で」を中心に考察してきたが、周（2004）では、「到」と「まで」に関する詳しい考察がなされている。周（同）は、時を表す「到」を含む文を次の3つに分類している¹⁴。

① 到 + (時間表現) + (Vp: 動態性)

② 到 + (時間表現) + (Vp: 状態性)

③ V + 到 + (場所または時点)

そして、「到」と「まで」との対応関係について、①は「対応しない」、②は「一部対応する」、③は「対応する」、としている。本稿1.2節で挙げた例文(9)は③に、(10)は②に相当する（下に再掲する）。

(9) 在这间屋子休息到3点。⁽¹⁵⁾
(で この 部屋 休憩する まで 3時)

(10) 到昨晚3点这个文件确实是在这儿。
(まで 昨夜の3時 この 書類 確か ~にあった ここ)

ところで、本稿の考察の出発点となったのは次の文であった。

(13) 到3月毕业。
(まで 3月 卒業する)

この文の構造は、①と同じであり、周（同）が述べているとおり、「3月まで卒業する」とは言えないので、本稿の主張は、周（同）の記述と一致しているように見える。しかし、周（同）は①の文について次のように述べている。

S_{1時a}（上記①に相当：筆者注）は“再”、“才”、“就”などの前後関係を示す副詞の働きを借りて、「ある時になってから後の動作が起こる」という前後関係を明らかにするものである。これらの副詞がなければ、複文の前項と後項の条件関係が曖昧になり、文が不自然になる。

具体的には、次のような文において、下線部の副詞がなければ、文が不自然になるということである。（周（同）より一部を引用する）

(31) 到晚上再说 （夜になったらまた話そう：筆者訳）

(32) 到早晨三点才躺下 （朝の3時にやっと横になった：筆者訳）

時間表現としての、中国語「到」「ゼロ形式」と日本語「まで」「に」「で」

本稿で取り上げた中国語の文（下に(33)～(36)として再掲）は、構造的には①と一致する。しかしながら、周(同)の記述とは異なり、「再”、“才”、“就”などの前後関係を示す副詞」を伴っていないのに、いずれも安定した文になっている。

(33) 到3月毕业。

（3月で卒業する）

(34) 上海世博到10月结束。

（上海万博は10月で終わる）

(35) 这家店到今年8月将要迎来10周年。

（この店は今年の8月で10周年を迎える）

(36) 我的留学生活到明年4月将满1年。

（私の留学生活は来年の4月でちょうど1年になる）

①の構造を持つ文が、「再”、“才”、“就”などの前後関係を示す副詞」を必要とするかしないかは、「ある特定の状態が継続し、ある時点に達した時、継続していた状態に質的な変化が生じる」という前提（以下、「前提」と略記する）を持つか否かによって決まる。この「前提」を持たない場合には周(同)の記述のとおり「前後関係を示す副詞」を必要とする。一方、この「前提」を持つ場合は、「前後関係を示す副詞」は必要ではない。周(同)では、「この前提を持つ場合」の文（例文(33)～(36)がそれに相当する）についての言及はない。

「前提」のあるなしに関わらず、周(同)の指摘のとおり、①の構造の文の「到」は「まで」と対応しない。つまり、①の構造の「到」を「まで」と訳すことはできない。一方、①の構造の文が「前提」を持つ場合、「到」を「で」に訳すことが可能になる。(33)～(36)参照)

一方、2.2節で挙げた(25)～(27)の文は、上の「前提」を持たない。(下に再掲する)

(25) 她去年3月入学。

(26) 上海世博4月开始。

(27) 昨天下午3点他来到这儿。

時間表現としての、中国語「到」「ゼロ形式」と日本語「まで」「に」「で」

これらの文の時間表現に「到」をつけて、①の構造の文にするためには、周（同）の指摘のとおり、時間的前後関係を示す副詞を必要とする。また、これらの文の「到」は「で」にも「まで」にも訳すことはできない。

(37) 她到去年3月才入学。

(彼女は去年の3月になってやっと入学した)

(38) 上海世博到4月才开始。

(上海万博は4月にやっと始まる)

(39) 到昨天下午3点他才来到这儿。

(昨日の3時になってようやく彼はここに来た)

4. おわりに

本稿では、時間に関わる「に」「まで」「で」（日本語）と「到」「ゼロ形式」（中国語）との関係について考察した。その結果、次の結論を得た。

- ①これらの関係を考える時、「ある特定の状態が継続し、ある時点に達した時、継続していた状態に質的な変化が生じる」という前提を持つか否かが形式を決定する際に重要な意味を持つ。
- ②「に」と「ゼロ形式」は、①の前提の有無に関わらず使用可能である。
- ③上記①の前提がある場合、「に」「ゼロ形式」に代わって「で」「到」の使用が可能になる。
- ④上記①の前提がない場合、日本語では「で」も「まで」も使用されない。中国語では、時間的前後関係を明示する副詞を加えれば「到」を使用することができるが、この「到」は日本語の「で」「まで」に訳すことはできない。

注

(1)

次の a~b のような、日本語における「ゼロ形式」は、本稿での「時間表現+に」と同じものとして扱うことができると思われるが、本稿では、このことには言及しない。

時間表現としての、中国語「到」「ゼロ形式」と日本語「まで」「に」「で」

a. 先週の日曜日 ◇ 学会に行った。

b. 来月 ◇ 帰国する。

(2)

中国語では時間表現の前に「在」をつける場合があるが、本稿ではこの問題は扱わない。

(3)

本稿で考察の対象とする形式のうち、日本語の「に」「まで」「で」はすべて助詞（基本的に格助詞と言ってよい）であるが、中国語の「到」は動詞と“介詞（前置詞）”との間で揺れがある。また「ゼロ形式」を助辞と呼ぶことにも若干のためらいはあるが、ここでは、便利のために、これらを「助辞」としてまとめておく。

(4)

「在」をつけるかどうかについて本稿では言及しない。注(2)を参照のこと。

(5)

「まで」と「到」との関係については、周（2004）の論考があるが、本稿と関連する部分について、3節で触れることになる。

(6)

文頭の「*」は、その文が正しくないことを示す。

(7)

時を表す「に」と「で」については、岩崎（1995）の論考がある。本稿の「に」と「で」に対する考え方は基本的に岩崎（同）に沿ったものとなっているが、本稿の目的が日本語と中国語の対照にあるため、日本語の、時を表す「に」と「で」に関する岩崎（同）の主張と本稿の立場とのすり合わせには不十分なところがあるのは否めない。これについては、今後の課題としたい。

(8)

岩崎（1995）には、時を表す「で」について「デ格はデ格につく名詞の表す時点までの経過を含意して達成・到達点として指す」とある。

(9)

より正確に言えば、当該の前提があるときに「で」の使用が可能となる。したがって、「で」が使用された文は当該の前提を含意していることになる、ということである。

(10)

岩崎（1995）は、

「～になる」「～人を突破する」などはデ格につく名詞の表す時点になって、そのようになったり、人数を突破したりするのであるが、その時点まではそのようではなかった、その人数には達していなかったという含意が容易に得られるためデ格の経過の含意と符合してデ格が可能になるのだと思われる。

と述べている。本稿は、「その時点まではそのようではなかった、その人数には達していなかった」という否定的な状態は「で」成立のための前提にはならないと考えている。

(11)

「に」と「ゼロ形式」は、前提のあるなしに関わらず使用が可能な点で、前提を必要とする「で」「到」より「中立的」であると言える。

(12)

「で」「到」を選択しようとする場合の動機は、日本語・中国語に共通すると考える。それは、2.1節～2.2節で示した日本語と中国語との間で見られる共通の文法的ふるまいによって裏付けられる。

(13)

注(12)と同じ。

(14)

周（同）は実は「到」を含む文を6つに分類しているのだが、時ではなく場所に関わるものを2種、そして「从～到～」を挙げている。これら3種は本稿とは直接関わらないので、ここでは取り上げなかった。

(15)

「V+到+（場所または時点）」のパターンである「在这间屋子休息到3点」、

時間表現としての、中国語「到」「ゼロ形式」と日本語「まで」「に」「で」

あるいは、それに対応する日本語文「3時までこの部屋で休憩する」などの文は、「ある特定の状態が継続し、ある時点に達した時、継続していた状態に質的な変化が生じる」ということを含意しているかのように見える。含意がある場合、「到」は「まで」にはならず「で」になるというのが本稿の主張である。ところが、上の日本語文では「まで」が問題なく使われている。したがって、これらの文に当該の「含意」があるとすれば、本稿の主張は成立しなくなる。結論から言えば、「在这间屋子休息到3点」「3時までこの部屋で休憩する」は、「ある特定の状態が継続し、ある時点に達した時、継続していた状態に質的な変化が生じる」ということを含意しない。3時になった時に休憩を終了すると読めるのは、語用論的解釈に過ぎない。「3時まで休憩したが、まだ疲れていたので、そのまま4時まで休憩していた」と言っても全くかまわない。この場合、3時の前と後に状態の質的な変化はない。

参考文献

- 岩崎卓（1995）「ニとデ 一時を表す格助詞一」宮島・仁田編『日本語類義表現の文法（上）』くろしお出版
- 久野暉（1973）『日本語文法研究』大修館書店
- 周媛（2004）「到達点を示す“到”と日本語『マデ』について」お茶の水女子大学中国文学会報 23
- 刘月华（1983）『实用现代汉语语法』商务印书馆

謝辞

上海外国語大学大学院から本学に留学中の顧楽平さんには中国語の例文の判定その他、有益なご助言をいただいた。この場を借りて謝意を表したい。